

東京都立美原高等学校 令和5年度 地歴公民科 世界史B 年間授業計画

教科 科： 地理歴史 科 目： 世界史B 単位数： 2単位

対象学年組： 第3学年1組～6組)

教科担当： (1・3・5組：) (2・4組：)

使用教科書： (世界史B 新訂版(実教出版))

使用教材： (最新世界史図説タペストリー(帝国書院))

	指導内容	世界史Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	第11章-2 産業革命 第11章-2 南北アメリカの革命	産業革命とその影響について理解させる 南北アメリカの革命について理解させる	定期考査において、基本的な歴史的事象についての知識・理解、資料活用能力、思考力を評価し、これに授業中の学習への取り組み方や、課題プリントの提出状況、ノートの記入状況等への評価をあわせて、総合的に判断する。	4
5月	第11章-3 フランス革命とナポレオン帝政	1. 身分制のフランス旧社会の状況を考察させ、何が社会矛盾となっていたのか理解させる。 2. フランス革命に大きな影響を与えた、主な啓蒙思想家の考え方、英仏など諸外国の動向も考察させる。 3. フランス革命の進行状況と、貴族・農民・有産市民・都市民衆の思惑の絡み合いを把握させ、革命の複雑な経過を理解できるように留意する。 4. 史料『人権宣言』によって、フランス革命が近代国家と近代市民社会の重要な原理を提起したことを理解させる。 5. 革命状況の進行とともに、どのような社会層が中心となって活動したか、有力な政治グループの主張や他の階層の思惑などに留意して理解させる。	定期考査において、基本的な歴史的事象についての知識・理解、資料活用能力、思考力を評価し、これに授業中の学習への取り組み方や、課題プリントの提出状況、ノートの記入状況等への評価をあわせて、総合的に判断する。	7
6月	第12章-1 ウィーン体制と1848年の革命	6. 革命に対する諸外国の干渉の動きを対仏大同盟の結成を中心に考察させ、またなぜ国際戦争に拡大したのかを理解させる。 7. 啓蒙思想の影響もあり、フランス革命が反キリスト教(カトリック)の運動であったことも理解させる。 8. ナポレオンを単にフランス革命を終結させた人物だけでなく、民法典の内容を発展させて、革命の継承者といった点も理解させる。 9. ナポレオンの大陸制覇が、フランス革命のめざした理念をヨーロッパ中に広めた一方、諸民族の間にナショナリズムを芽生えさせた意義を理解させる。 10. フランス革命からナポレオン時代にわたる国際戦争の性格を考察させ、工業化を進展させていたイギリスとの対抗戦であった点と、最終的にイギリスが勝利したことを理解させる。	定期考査において、基本的な歴史的事象についての知識・理解、資料活用能力、思考力を評価し、これに授業中の学習への取り組み方や、課題プリントの提出状況、ノートの記入状況等への評価をあわせて、総合的に判断する。	8
7月	第12章-1 ウィーン体制と1848年の革命	1. ウィーン会議の目的を理解させる。 2. ウィーン議定書における各国の領土変更の実態を地図を用いて把握させ、とくに旧神聖ローマ帝国領がどのようになったのか確認させる。 3. 列強の協力によるウィーン体制がめざした反動性と、それに対抗する諸地域におけるナショナリズムや自由主義の運動を考察させる。	定期考査において、基本的な歴史的事象についての知識・理解、資料活用能力、思考力を評価し、これに授業中の学習への取り組み方や、課題プリントの提出状況、ノートの記入状況等への評価をあわせて、総合的に判断する。	5
8月				

東京都立美原高等学校 令和5年度 地歴公民科 世界史B 年間授業計画

教科：地理歴史科 目：世界史B 単位数：2単位

対象学年組：第3学年1組～6組

教科担当者：(1・3・5組：) (2・4組：)

使用教科書：(世界史B 新訂版(実教出版))

使用教材：(最新世界史図説タペストリー(帝国書院))

9月	<p>第12章-1 ウィーン体制と1848年の革命</p> <p>第12章-2 19世紀後半のヨーロッパとアメリカ</p>	<p>4. 王政復活後フランスの政治状態の推移を確認させ、七月革命がどのような性格を持った動きであったのか理解させる。</p> <p>6. フランスでも七月王政下で産業革命が本格化すると同時に、どのような課題が表面化したかを考察させ二月革命への関心を引き出す。</p> <p>7. ギリシアの独立運動がウィーン体制に動揺を与えた点と、これがその後オスマン帝国領を舞台に生じる国際対立である「東方問題」の始まりとなる点を理解させる。</p> <p>3. ナポレオン3世が「自由貿易の原則のもとに国内産業の育成」をめざした点を把握させ、そのうえでなぜ数多くの対外戦争を行ったのかを考察させる。</p>	<p>定期考査において、基本的な歴史的事象についての知識・理解、資料活用能力、思考力を評価し、これに授業中の学習への取り組み方や、課題プリントの提出状況、ノートの記入状況等への評価をあわせて、総合的に判断する。</p>	6
10月	<p>第12章-1 ウィーン体制と1848年の革命</p> <p>第12章-2 19世紀後半のヨーロッパとアメリカ</p>	<p>9. 産業革命の進展による中産階級の政治的発言力の増大と結びついて自由貿易主義の条件が整備され、19世紀後半のイギリスの動きの原則となる点を理解させる。</p> <p>1. “パクス=ブリタニカ”を象徴するヴィクトリア時代の近代二大政党の内政・外交の比較、初等教育の整備と国民意識の形成及び海外植民地の重視との関連などを理解させる。</p> <p>2. アイルランドが置かれたイギリスとの関係、ジャガイモ飢饉による合衆国への移民を、19世紀後半の対米関係や現在に至る対英関係を配慮して考察させる。</p> <p>3. ナポレオン3世が「自由貿易の原則のもとに国内産業の育成」をめざした点を把握させ、そのうえでなぜ数多くの対外戦争を行ったのかを考察させる。</p>	<p>定期考査において、基本的な歴史的事象についての知識・理解、資料活用能力、思考力を評価し、これに授業中の学習への取り組み方や、課題プリントの提出状況、ノートの記入状況等への評価をあわせて、総合的に判断する。</p>	8
月10	<p>第12章-2 19世紀後半のヨーロッパとアメリカ</p>	<p>4. イタリアの統一に関しては、「下からの動き」と「上からの動き」で整理して考察させ、また様々な地名に関しては、地図を利用して確認させる。</p> <p>5. イタリアに関しては、領土統一後に生じた「国内の南北問題」「イタリア王国と教皇庁との関係」「未回収のイタリア問題」を理解させ、20世紀につながることを指摘する。</p> <p>6. ドイツ統一に関しても、ウィーン体制下の動向から整理させ、19世紀後半の統一過程と共に、成立したドイツ帝国の実態を理解させる。</p> <p>7. 1870～90年頃までのヨーロッパ国際体制=ビスマルク外交に関しては、年代順に考察させると共に、諸国間の関連図を描かせて整理させる。</p>	<p>定期考査において、基本的な歴史的事象についての知識・理解、資料活用能力、思考力を評価し、これに授業中の学習への取り組み方や、課題プリントの提出状況、ノートの記入状況等への評価をあわせて、総合的に判断する。</p>	8

東京都立美原高等学校 令和5年度 地歴公民科 世界史B 年間授業計画

教科 科： 地理歴史 科 目： 世界史B 単位数： 2 単位

対象学年組： 第3学年1組～6組

教科担当者： (1・3・5組：) (2・4組：)

使用教科書： (世界史B 新訂版(実教出版))

使用教材： (最新世界史図説タペストリー(帝国書院))

12月	第12章-2 19世紀後半のヨーロッパとアメリカ	<p>8. クリミア戦争をめぐるヨーロッパ列強間の国際関係を確認させる。</p> <p>9. 従来の英露を基軸としたヨーロッパの列強体制がクリミア戦争で決定的に変化した点を理解させる。</p> <p>10. ロシアの農奴解放令の内容を正しく理解させると共に、これがいかなる背景から出され、ロシアにとっていかなる歴史的意義を持つかを認識させる。</p> <p>11. ナロードニキ運動の性格とその結果を、当時のロシアの社会状況との関連で把握させる。</p> <p>12. ロシアの南下政策に関しては、この後も続くことを、ロシア＝トルコ戦争からベルリン会議に至る経緯を通じて指摘する。</p>	<p>定期考査において、基本的な歴史的事象についての知識・理解、資料活用能力、思考力を評価し、これに授業中の学習への取り組み方や、課題プリントの提出状況、ノートの記入状況等への評価をあわせて、総合的に判断する。</p>	4
1月 12	<p>第11章-2 南北アメリカの革命</p> <p>第12章-2 19世紀後半のヨーロッパとアメリカ</p>	<p>1. ハイチ独立による奴隷制廃止は、奴隷制を採用していたアメリカ合衆国やヨーロッパ諸国に、また黒人国家の樹立は、ラテンアメリカ諸国のクリオーリョに警戒心を抱かせた点を指摘する。</p> <p>2. 独立達成後のラテンアメリカが自由貿易政策を採用した結果、イギリスをはじめとする欧米諸国に経済的に従属し、工業化が大幅に遅れた点を、南北問題に絡めて理解させる。</p> <p>13. 19世紀の合衆国に関しては、米英戦争の意義、西部への領土拡大とアメリカ的民主主義の成長、「明白な天命」を持つ人種的・宗教的な問題点などを考察させる。</p> <p>14. 南北戦争に関しては、そこへ至る背景・要因、戦争後に解決された問題と未決のまま残された問題を併せて考察させる。</p>	<p>定期考査において、基本的な歴史的事象についての知識・理解、資料活用能力、思考力を評価し、これに授業中の学習への取り組み方や、課題プリントの提出状況、ノートの記入状況等への評価をあわせて、総合的に判断する。</p>	5
2月				0
3月				0